

膵癌の薬物療法における2次治療移行に影響する要因の検討

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究の目的と方法

手術ができない膵癌あるいは手術後に再発した膵癌では抗がん剤治療が行われています。抗がん剤治療による治療目標は余命の延長になりますが、その治療成績を向上するには使用可能な抗がん剤を継続して投与できることが望ましいと考えられています。しかし初回の抗がん剤に効果がなくなった時点で、次の抗がん剤を続けられない患者さんも多いことが現状です。膵癌に対して最も多く使用されている抗がん剤治療である「ゲムシタビン+アブラキサン：（以下、GnP療法）」を開始した場合に、GnP療法の効果がなくなった時点で次の治療（2次治療と言います）を実施できる割合と2次治療へ進めない要因を解析する研究を計画しました。GnP療法を受けた患者さんの診療記録を収集し、2次治療を実施できた患者群と実施できなかった患者群について背景因子を比較します。診療を通じて得られた情報を使用しますので新たな検査や調査をお願いすることはありません。

研究の対象となる方

2020年6月～2022年12月に当院でGnP療法を受けられた方

使用する試料・情報

年齢・性別・身長・体重・疾患状況（転移性・局所進行・再発）・転移臓器・胆管閉塞事象・十二指腸狭窄・ステント留置・治療中の輸血・インスリン使用・アルブミン値・クレアチニン値・CEA値・CA19-9値・1次治療開始日・最良治療効果・1次治療の転帰および終了日

利用開始予定日：2023年10月22日

研究予定期間

2023年10月22日～2023年12月31日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

[研究の情報管理責任者] 総合腫瘍科 森北辰馬

[当院の個人情報管理責任者] 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先

済生会熊本病院 総合腫瘍科 森北 辰馬

住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000(代表)